

国語

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
<input type="checkbox"/> 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> 思考力、判断力、表現力等
3年間かけて常用漢字の大体を読めるようになり、また学年別漢字配当表に示されている漢字を文や文章の中で使えるようになる。	自分の伝えたいことを、表現や構成を工夫しながら正確に伝えられる文章が書けるようになる。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から書き言葉や文章として考えを表現したり説明したりする習慣が乏しく、基本的な語彙の習得、表現や文章構成の工夫に課題がある生徒が多い。<input type="checkbox"/> 小学校で既習の漢字や、日常的によく使う漢字などの定着に課題がある生徒が一定数いる。<input checked="" type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに学習内容を言葉で振り返ったり、ワークシートに考えを書かせたりするなど、日頃から書く機会を増やしていく。<input type="checkbox"/> 授業内で漢字小テストを定期的実施する。また定期考査や休み明けテストに向けた学習方法を見直させ、苦手な生徒も目標をもって取り組める環境を作る。<input checked="" type="checkbox"/> 	<input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 前期～後期	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 作文の内容に具体性をもたせ、相手が理解できる内容を書くことに課題がある。<input type="checkbox"/> 漢字の読みについては問題がないが、書く能力については定着に課題がある。<input checked="" type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識と目的意識を明確にし、推敲を通して文章をより良くする場を設定する。<input type="checkbox"/> 年間を通して週一度漢字テストを実施、学期に一度漢字コンクールを行う。<input checked="" type="checkbox"/> 	<input type="checkbox"/> 前期～後期 <input checked="" type="checkbox"/> 前期～後期	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 作文の内容に具体性をもたせ、相手が理解できる内容を書くことに課題がある。<input type="checkbox"/> 漢字の読みについては問題がないが、書く能力については定着に課題がある。<input checked="" type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 200字作文、批評文を書く活動の中で相手意識と目的意識を踏まえ、構成について交流を行う。<input type="checkbox"/> 週に一度漢字テストを実施し、必要な生徒には再テストや追加課題を課す。<input checked="" type="checkbox"/> 	<input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 前期～後期	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの考えを共有し、助言し合う活動に活用する。 発表(個人・グループ)において資料の提示等に活用する。 情報の収集をした上で文章を書いてまとめる授業に活用する。 	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業ごとに授業プリントを作成する。 単元や授業の最初に目標や評価、授業の流れについて説明する。 振り返りの記述を共有することでより深い学びへと促す。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

社会

令和5年度 多摩市立落合中学校 授業改善推進プラン 教科名

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
社会的事象の基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得するとともに、それらを社会に見られる諸問題の解決のために生きて働く「概念的知識」に昇華させることができる。	「社会的な見方・考え方」を働かせながら、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想（選択・判断）したりすることができる。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	①基礎的・基本的な知識の定着に課題があったり、断片的な知識でとどまっていたりする。ア ②様々な情報に着目することはできるが、課題解決に必要な情報を適切に選択したり、相互に関連させて考察したりすることに課題がある。イ	①自宅学習としてオンラインドリルにも取り組ませ、進捗状況を確認した上で、前時の復習を行う。 ①「私たちの生活にどのように生かせるか」という視点で単元のまとめを行う。 ②「何のために、何に着目するか」ということを投げかけながら、資料の読み取りをさせる。小グループや学級全体での共有の場を設定し、考察の視点を相互に学ばせる機会とする。	①毎時間 ①単元の終わり ②各単元の終わり	
第2学年	①既習事項について、基礎的・基本的な知識はおおむね定着しているが、新しく学ぶ内容に対して自ら応用するまでには至っていない。ア ②社会に見られる諸課題について自分事として捉える意識が薄いことが課題である。イ	①単元ごとに振り返りを行う。その際、既習事項を応用して解答する問題を用意し、知識をどのように使えばよいのか考える時間を設ける。 ②社会問題について授業内で触れ、自分たちの生活とのつながりを考える機会を設ける。	①各単元の終わり ②毎時間	
第3学年	①既習事項について、基礎的・基本的な知識の定着にばらつきが見られる。また、複雑な知識同士の結び付きを想像することに課題がある。ア ②物事を多角的に見ることに課題はあるが、社会的課題への意識は高い生徒が多い。イ	①基礎的な知識の確認を繰り返し複数回行うことで定着を図る。 ①ロイロノートの思考ツールなどを活用し、構造的・複雑な知識の連関を可視化する。 ②身近な社会的課題から社会的な概念知識へと導くよう授業を計画する。	①各単元の終わり ②毎授業	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- ・資料の読み取りの際に、画面共有を行うなど、ポイントを分かりやすく提示する。
- ・ロイロノートを活用し、意見等を提出させ、全体共有に活用する。また、その意見を踏まえて、個人の振り返りにつなげる。
- ・プリントやノートなどの課題提出もロイロノートを活用し、評価やフィードバックをオンライン上で行う。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- ・「持続可能な社会の担い手としてどのような考え方が必要か。自分自身に何ができそうか。」ということを記述させたり、話し合わせたりする。
- ・「振り返りシート」を活用し、学習を通じた自身の変化に気付かせる。例えば、単元の導入で学習課題（「問い」）を提示して回答を予想させたり、各項の授業後に回答の深まり具合を確認させたりする。
- ・実生活との関連を考えさせたり、学習内容を踏まえて社会に見られる諸課題の解決に向けた構想を行わせたりする。

数学

数学科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付ける。	数学を活用して論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表現する力を身に付ける。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な計算は身に付いている生徒が多い。ア ・文章問題に苦手意識をもつ生徒が多く、問題から立式することが難しい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に復習問題に取り組みさせることで、基本的な知識・技能の習得を図る。 ・小テストを行い、基本的な知識・技能が身に付いているかを図る。 ・単元の終わりに、学んだことをワークシートに記述させ、単元の内容を自分で整理させる。 ・文章問題では、立式する前に図や表を活用して全体の見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時 ・習熟の程度に応じて ・単元ごと 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な計算は身に付いている生徒が多い。ア ・活用問題では、既習事項との結び付きを意識することに課題がある生徒も見受けられる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に復習問題に取り組みさせることで、基本的な知識・技能の習得を図る。 ・小テストを行い、基本的な知識・技能が身に付いているかを図る。 ・単元の終わりに、単元テストや振り返りシートに取り組みさせ、単元の内容を自分で整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時 ・習熟の程度に応じて ・単元ごと 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な内容理解が十分でない生徒がいる。ア ・文章問題や発展的な課題への苦手意識が強く、考えを数学的に表現することが難しい生徒が多い。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に既習事項の復習、小テストを行い、基本的な知識・技能の定着を図る。 ・文章問題を考えるときに最初から文字で考えるのではなく具体的な数字で考えられるようにする。 ・説明し合う活動を通して、問題を多角的に捉え、的確な表現方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時 ・習熟の程度に応じて ・単元ごとに複数回 	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用し、生徒のノートやワークシートを写し、課題解決の過程を全体で共有する。それを個で考えるときのヒントとして役立てたり、授業のねらいに沿って、生徒の考えから練り上げ、考察を深めたりするときに用いる。 ・また、D マークコンテンツを活用し、グラフや図形を動かすなどして事象を視覚的に捉え、考察をする。 	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の前に既習事項との関連を意識させた見通しの時間をとる。 ・また、授業の最初に簡単な小テストを行い、前回までの学習内容を振り返る。単元のまとめでは、振り返りシートを記入することで単元の学習内容を振り返り、自分で学んだことを整理する時間をとる。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

理科

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解する。 ・科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察・実験を行い、得られた結果を分析して解釈する。 ・科学的根拠を基に論理的に表現することができる。

学年	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な概念や原理・法則について、生徒によって定着の差が見られる。ア ・科学的根拠を基に思考・表現する力に課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項について、毎時間初めに振り返りを行い、繰り返し基本的な概念や原理の定着を図る。 ・実験結果を基に考察できることを話し合い、自分の考えを表現する場や他者の考えを聞く場を設定する。また、単元末に思考の流れを確認し、表現する課題に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時 ・実験後、単元末 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な概念や原理・法則について、生徒によって定着の差が見られる。ア ・抽象的な概念について、それをを用いた思考をする力に個人差が見られる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を比較し、そこから規則性や法則を、振り返りシートやテストを行うことで理解させる。 ・個々の実験結果を、既習事項と原理や法則と結び付けて思考する場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時 ・実験前後 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な概念や原理・法則については理解している生徒が多い。ア ・基礎的な学習内容と結び付け、自然の事物現象について科学的根拠を基に論理的に思考・表現することに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な概念や原理・法則を基に発展的に考える課題を多く取り入れる。 ・自然の事物現象においての課題を共有し、実験の見通しを確認・共有する。また、事後に生徒が科学的根拠を基に論理的に説明や表現する機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時 ・実験前後 	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年 インターネットや動画視聴に活用、実験結果等の記録共有	1年 身の回りの事象から学習内容に結び付け、学習意欲を育む振り返りシートの実施(随時)、定期テストの振り返り
2年 インターネットや動画視聴に活用、実験結果等の記録共有 パフォーマンステストへの活用	2年 身近な事象と学習内容を結び付け、学習意欲を育む学習の振り返りシートの実施、定期テストの振り返り
3年 インターネットや動画視聴に活用、実験結果等の記録共有	3年 振り返りシートの実施(随時)、定期テストの振り返り

音楽

音楽科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
<input checked="" type="checkbox"/> 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> 思考力、判断力、表現力等
創意工夫を生かした表現で歌唱するために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、積極的に歌唱する力を身に付ける。	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	授業中の発言も多く、とても意欲的に取り組み、音楽活動を活発に行うことができる。他者の意見を踏まえて、自分の考えをまとめることに課題がある。 <input checked="" type="checkbox"/>	生徒が発言しやすいよう、個人で意見を考えた後、グループで話し合い、改めて個人で考え直す活動を入れる。ヒントカードを活用する。	単元ごと	
第2学年	授業に対して積極的に取り組む。しかし、歌唱の際、全体的に声量が出にくいことがある。 <input checked="" type="checkbox"/>	歌唱の前に、発声練習を重点的に行い、声量を上げることに力を入れる。また、定期的に小グループに分かれて歌の発表をさせることで、課題を見付け、改善していく楽しさを感じさせる。	毎時 発表は月1回程度	
第3学年	授業に積極的に真剣に取り組んでいる。声量が出にくい。 <input checked="" type="checkbox"/>	パート練習では、振り返りを基にリーダーが中心となって本時の課題を決め、生徒自身で目標を立てさせる。	毎時	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>タブレット端末を活用し、歌唱や合唱の録音・録画を撮り、自ら課題を発見し、改善できるようにする。また、タブレット端末を通して成果を全体で共有し改善点を話し合う。</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>振り返りカードを用い、授業ごとに目標を明確に示すとともに、成果や改善点を生徒自ら考え、次時につなげる。また、授業の終末では、本時の振り返りやまとめをし、次時の授業内容を伝えることにより、見通しをもてるようにする。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

美術

美術科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
<input type="checkbox"/> 知識及び技能	<input type="checkbox"/> 思考力、判断力、表現力等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	主題を生み出し豊に発想し、構想を練ったり、美術に対する見方や感じ方を深めたりしている。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的なデッサンや観察に課題が概ねできている。 <input type="checkbox"/> 基礎的な表現技法において、技量の個人差が大きい。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 画材等の技能面について課題がある。 <input type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 制作に関するアドバイスをを行う。 <input type="checkbox"/> 見通しをもった制作ができるように、工程を示したプリントを準備、配布する。 <input type="checkbox"/> 視聴覚教材を用いた授業を行う。 <input type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 適宜 各単元の始め 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 発想や構想面で技量の個人差が大きい。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 基礎的な表現をベースにした、応用的な表現技法に課題がある。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 個々の表現技能に差が見られ、作業が進まない生徒が目立つ。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもった制作ができるように、工程を示したプリントを準備、配布する。 <input type="checkbox"/> タブレット端末を用いて、発想や構想を深める。 <input type="checkbox"/> 制作に関するアドバイスをを行う。 <input type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の始め 適宜 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 表現方法と技法を理解する事に課題がある。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 個々の表現技能に差がみられ、作業が進まない生徒がいる。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもった制作ができるように、工程を示したプリントを準備、配布する。 <input type="checkbox"/> タブレットを用いて、発想や構想を深める。 <input type="checkbox"/> 制作に関するアドバイスをを行う。 <input type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の始め 適宜 	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>課題の発想や構想の段階で、自分のイメージを具現化する事に活用したり、具体的に表現したいモチーフを調べるために活用する。</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品のコンセプトを明確にして、自己の作品を振り返る。 作品展の相互鑑賞により、発想や表現方法を学ぶ。
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

保健体育

保健体育科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

<p>ア 知識及び技能</p>	<p>イ 思考力、判断力、表現力等</p>
<p>健康・安全についての理解を深め、生涯にわたり健康を保持増進し、運動技能を習得させ、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。</p>	<p>主体的・協働的な学習活動を通して、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る方法を探究する力を育成する。</p>

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<p>ア運動を楽しむことができているが、運動の実践が記録や技能の向上につながっていない。イ運動することそのものが目的になっている場面が多く見られるので、課題の探究や到達目標を明確にすることが課題である。</p>	<p>ア学習カードやタブレット端末を用いて運動に必要な知識を習得し技能の向上につなげさせる。イペアワークを中心に互いに教え合う時間を作り、課題の発見や解決方法の探究につなげる。</p>	<p>年間を通じてどの運動領域についても行っていく。</p>	
第2学年	<p>ア運動が苦手な生徒が、段階的に課題を決めて練習する時間がもてず、運動技能の習得に差が出ている。イグループ学習では意見を出し合うというより個々に努力する姿が見られた。助言や協力して課題に取り組む力を付けることが今後の課題である。</p>	<p>ア学習カードを活用して、計測値や計測回数などの目標をもたせ、自己の到達度を確認しながら次の目標に向けて学習を進めるようにする。イペアなど少人数のグループ活動から学習を展開し、互いに助言し合うなど対話的な学習の場面を増やす。</p>	<p>年間を通じてどの運動領域についても行っていく。</p>	
第3学年	<p>ア積極的に取り組み、運動を楽しみながら技術を習得し体力の向上に成果を上げている。今後は生活習慣の変化によって、体力が低下しないように、積極的に運動を取り入れ継続させていく力を付けたい。イ運動が苦手と感じる生徒が減少し仲間と運動を楽しむための努力や工夫ができるようになった。</p>	<p>ア体力テストの結果から自己の体力を理解させ、目標を立てさせ、必要な運動を継続して行わせ体力の向上を図る。イ学習カードやタブレット端末を活用して自己の運動課題を見付け、解決方法を探究する学習をグループで行い対話的で深い学びにしていく。</p>	<p>年間を通じてどの運動領域についても行っていく。</p>	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・最終的に到達すべき知識・技術を端末で調べさせる。 ・グループ学習において、互いの技術を録画して比較、分析を行わせる。 ・ダンスなど自分たちの成果を、タブレット端末を活用し録画して発表したり、他のグループの作品を鑑賞させる。 ・ロイロノートを活用し、各自の課題を提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの段階的手段や、考えるポイントを明確にした学習カードを作成する。 ・学習カードを使用したグループ学習の取組により、仲間と考えや気付きを共有させ、互いに助言し合い、それを記録しながら学習を振り返らせることで「対話的で深い学び」を通じて、学びに向かう力の育成を図る。

技術・家庭科

技術・家庭科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活と結び付けることができる。	生活から課題を見付け、身に付けた知識を基に解決策を考え実践しようとしている。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ● 技能に対する理解と習得に課題がある生徒が多くいる。ア ● 自ら考え課題に取り組む創造力や工夫する力が弱い傾向にある。イ ● 特に言語から具体物をイメージする力が不足傾向にある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 実践的・体験的な活動を取り入れ、知識と技能が有機的に結び付くようにするア ● 生徒の特性に合わせて指導方法を工夫し、映像などを用いて理解を促す。ア ● 自分の考えをまとめ、お互いに共有できる場を設ける。イ 	● 毎時間ア, イ	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ● 技能に対する理解と習得の差が大きく、個別に支援が必要な生徒がいる。ア ● 自ら考え課題に取り組む創造力や工夫する力が弱い傾向にある。イ ● 特に言語から具体物をイメージする力が不足傾向にある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 実践的・体験的な活動を取り入れ、知識と技能が有機的に結び付くようにするア ● 生徒の特性に合わせて指導方法を工夫し、映像などを用いて理解を促す。ア ● 自分の考えをまとめ、お互いに共有できる場を設ける。イ 	● 毎時間ア, イ	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ● 身に付けた知識や技能と、生活との結び付きが理解できていない。ア ● 技能に対する理解と習得の差が大きく、個別に支援が必要な生徒がいる。ア ● 自ら考え課題に取り組む創造力や工夫する力が弱い傾向にある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活から出る課題の中から知識を抽出し生活との結び付きを印象付ける。ア ● 生徒の特性に合わせて指導方法を工夫し、映像などを用いて理解を促す。ア ● 自分の考えをまとめ、お互いに共有できる場を設ける。イ 	● 毎時間ア, イ	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年 タブレット端末を使用して意見共有をし、考えの深化を促す。 2年 タブレット端末を使用して意見共有をし、考えの深化を促す。 3年 タブレット端末を使用して意見共有をし、考えの深化を促す。	1年 振り返りシートを活用した毎時間の振り返りの実施 2年 振り返りシートを活用した毎時間の振り返りの実施 3年 振り返りシートを活用した毎時間の振り返りの実施

英語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

<p>ア 知識及び技能</p> <p>・コミュニケーションの中で、基本的な語彙や文構造を活用する力や、自らの考えを相手に伝えるための「発信力」を養う。</p>	<p>イ 思考力、判断力、表現力等</p> <p>・聞くことや読むことを通じて得た知識を、自らの体験や考えと結びつけながら活用する、「話す力」「書く力」を養う。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	英語学習に関心を持ち、特に会話練習などのペア活動に積極的に取り組んでいる。発音練習や音読、会話練習等の音声を聞いた活動に学習効果を感じている生徒が多い。一方でつづりを覚えることや文構造の定着にはまだ課題がある。また、自己表現の際に、既習内容を活用することにも課題がある。	<p>ア 会話練習を通して、学習した語句や文法表現の反復練習を行う。ペアで学び合うことで語彙や文構造の定着を図る。</p> <p>イ 自己表現の際に、教科書本文やリスニング音声で使われている表現を活用するよう指導する。自己の学習状況に応じて、語句を変えたり順序立てて文を組み合わせたりするように指導する。</p>	授業ごとに課題を設定し、実施する。	
第2学年	英語学習に関心を持ち、授業だけでなく日々の課題など家庭学習にも意欲的に取り組む生徒が多い。昨年度に比べて、教材や授業への取組に工夫をしている生徒が多くなってきていると感じる。一方で、表現したい意志はもっているものの表現方法が分からない生徒が多い。また、日本語の例文を英語に訳して話すことはできても、自分が考えていることを英語で表現することに課題がある。	<p>ペア活動、グループ活動を取り入れることで、不得意な生徒も仲間に支えられながら学習できるよう工夫する。</p> <p>ア どんな内容も、簡便な表現で表すことができることを、継続して指導する。生徒が表現したこと(筆記したものを)を繰り返し添削し、定着を図る。</p> <p>イ パフォーマンステストを通して、教科書の表現を活用しながら自分自身の話をする習慣を付け、定着を図る。</p>	日々の課題添削、パフォーマンステスト実施時。	
第3学年	英語学習に関心を持ち、授業だけでなく家庭学習にも意欲的に取り組む生徒が多い。英語が苦手な生徒も、ロイロノートを活用しながら、能力向上に取り組んでいる。一方で、表現したい意志はもっているものの表現方法が分からない生徒が多い。また、まとまった内容の英文を一定時間内に話すことができる生徒が育成しきれていない。	<p>ペア活動、グループ活動を取り入れることで、不得意な生徒も仲間に支えられながら学習できるよう工夫する。</p> <p>ア どんな内容も、簡便な表現で表すことができることを、継続して指導する。生徒が表現したこと(筆記したものを)を繰り返し添削し、定着を図る。</p> <p>イ パフォーマンステストを通して、教科書の表現を活用しながらまとまった内容の話をする習慣を付け、定着を図る。</p>	パート終了毎の課題添削、パフォーマンステスト実施時。	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した課題を提出させ、個別の指導及び全体へのフィードバックを行う。 ・パフォーマンステストのスライド作成で用いる。 	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>1年 単元の初めに学習計画を示し、見通しと目標をもたせている。毎授業後と単元の終わりに振り返りを行い、生徒が学習内容と理解の程度を整理できるようにしている。</p> <p>2年 日々の授業冒頭で目標提示をし、見通しをもたせている。また、振り返りシートをもとに、本時の学習を振り返っている。</p> <p>3年 振り返りシートでの本時のねらいの再確認および次時の予定について見通しをもった学習をする。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

